# 宮崎県立看護大学大学院看護学研究科
# 平成２１年度修士論文要旨

## 看護過程の分析を通して－

磯野静香（基礎看護学）

**【キーワーズ】**　全体像，看護過程，対象特性，看護の原則，もてる力

本研究の目的は、看護の不全感が残った自己の看護過程を分析してその特徴を明らかにし、対象の全体像を描き続けるための視点を得ることである。研究対象は、看護の継続への不全感が残った自己の看護過程である。

研究方法は、看護の不全感が残った看護過程をプロセスレコードに再構成した。次に、各事例の《対象特性》を描き、そこから《看護の原則》を導き出した。それらに照らして《場面の意味》を取り出し、その看護過程における看護師の認識の特徴を明らかにした。その結果、良い変化が起こったことで安心していたり、個別な生活過程への関心が薄いことから、看護の必要性を患者の位置から捉えきれなかったために、必要な看護を継続できていなかったという特徴が浮き彫りとなった。その特徴を踏まえて、【対象の全体像を描き続けるための視点】を取り出し、４事例６場面から、13項目の視点が得られた。

それらの共通性・相異性を検討した結果、以下の４項目が得られた。

1　目の前の患者の状態だけから患者像をつくりあげない。
2　生活を作り出すのは患者のこころであるという生活観と、患者自身のもてる力で良い状態をつくり出していくことを支えるという看護観に照らして、患者の生活調整力は？という問いをもち、その人の生活過程を知ろうと関心を注ぐ。
3　患者の表現からこころのあり様に近づくために、その表現が出たきっかけや体の状態や生活の様子を示す事実のつながりを読み、患者の思いを感じ取ろうとする。
4　良い状態への変化は患者のもてる力が発揮されている時と意識し、どのような力が働いているのかとその時のからだとこころと生活過程の情況に関心を注ぎ、その力がどのような生活をつくり出しているかと思い描く。